

造花染色「意義ある仕事」

吉岡更紗さん講演



制作に携わった衣装について
解説する吉岡さん(奈良市で)

まほろば塾

薬師寺月例

作っており、薬師寺の伝統行事「花会式」で本尊の周りを飾る色鮮やかな造花に使う和紙を納めている。

造花のうち、特に桃の色を作るのが時間と労力がかかると説明。乾燥させた紅花に灰を混ぜた液体を加えて赤に発色させると紹介し、「非常に大変だが、意義のある大切な仕事」と話して講演。伝統的な染料の作り方を解説し、約80人が聴き入った。

吉岡さんは江戸時代に京都で創業した染屋「染司よしおか」の6代目当主。染料は全て自然界のものから

青木敬さんが講演する。講演は4月中旬にまほろば塾ホームページで配信される(有料。まほろば塾推進の会会員は無料)。次回は、5月21日に国学院大教授の